

## 第6学年1組 国語科学習指導案

日 時 令和元年6月26日2校時

場 所 6年1組教室

指導者 附属小学校 松尾 達也

1. 単元名 じつは日記を書いていたんだけど…

2. 学習材 風切るつばさ（木村裕一）東京書籍6年

### 3. 育成を目指す力

【資質・能力】人物と人物のとの関係を読み取る力。

【思考操作】互いの関係性を読み取るために、人物の行動と心情を関連づける。

【言語活動】人物の日記を書く。

【学習課題】この単元では、人物と人物のとの関係を読み取る力をつけることができる学習を行います。課題としては、人物の行動と心情を関連付けて、互いの関係性や思いを想像し、人物の日記を書くことです。

上記の学習課題は、学習指導要領 C(1)エ（人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること）を受けて設定している。登場人物の行動や会話様子などを表している複数の叙述を結びつけ、それらを基に性格や考え方を総合して判断することは、人物像や人間関係を捉えることにつながっている。

### 4. 言語活動とその特徴

本単元では、「登場人物が日記を書いていたらどんなことを書いていただろうか。」という、日記を書く言語活動を設定する。日記とは、基本的には自分のため書くものである。その日の出来事や心情を赤裸々に書き記すことが多い。その日の出来事に対して、誰にも言えなかったけれども思っていたこと、行動にできなかったけれども感じていたことを書くだろう。日記は独白に近く、人物の心情に迫る表現が期待できる。

本作品の特徴として、二人の登場人物の心情が叙述に直接的に記されている部分は少ない。しかし、会話や行動から、相手に向けられている心情を読み取りやすい。また、二人の登場人物がお互いに相手に対してどう思っていたのかを考えさせることで人物の関係を捉えやすくなる作品である。

このように、登場人物が日記を書いていたという設定での言語活動は、人物の心情をとらえ、人物と人物の関係を読み取る力を育成することができると思う。

### 5. 単元について

#### (1) 児童について

本学級の児童は、5年生の6月に「世界でいちばんやかましい音」の学習を通して、登場人物の関係を捉えるために、人物の行動に着目して読む学習を行っている。しかし、6年4月「サボテンの花」では、登場人物の「風」と「サボテン」の関係を的確に捉えることができていた児童は少なかった。独りよがりの読み取りを行っており、叙述に根拠を求めていないことが原因だと分析する。

また、書く活動においては個人差が大きく、一人で自在に書くことができる児童がいれば、教師のサポートなしでは書き始めることができない児童もいる。普段の指導においては、書くことに苦手意識を持っている児童もいることから、書き始めや形式の提示などの指導の工夫を行いながら書く指導を行っている。

#### (2) 指導について

言語活動は「日記（資料①参照）」を設定する。「もし、クルルとカララがそれぞれに日記を書いていたら、どんなことを書き残していただろうか？」という問いかけで考え始めさせ、場面ごとにク

クルルとカララの日記を書かせたい。日記には、人物の「行動」「その行動に伴う人物の感情」「相手への思い」「相手との関係の判断」観点を示し、書き進めさせる。この4観点を示すことで、人物の行動と心情、相手への思いと関係性についてとらえさせることができ、人物と人物との関係を読み取らせることにつながると考える。示した観点を関連付けるために「コンセプトマップ（資料②参照）」や「ベン図」等の思考ツールを用いさせる。

また、日記を書く際には、児童をクルル担当とカララ担当に分け、それぞれに活動させる。ただし、個人差を配慮し、ペア活動を行わせる。ペアでの活動は、個人差を埋めるだけでなく、児童の読み取りのズレを感じさせることで、対話の必然性を生むことにもつながると考える。ズレを確認するために、互いの考えに耳を傾ける必要があり、ズレを解消するために本文に立ち返って説明をしたり、叙述を確認したりする必要がある。ただし、児童同士の対話活動のみで正しい読み取りを行うことは難しい、適切なタイミングで児童の読み取りの妥当性を問う発問を行い、叙述に基づく思考や表現に誘いたい。

第一次では、教師作成の日記を児童に示す。昔話「ももたろう」の場面ごとに登場人物の心情を綴った日記を示すことで、本単元の言語活動のイメージを持たせる。

第二次では、まず、場面ごとのクルルとカララの関係性を一斉指導でまとめていく。その後は場面の詳細読みから日記を書く活動に進めていく。詳細読みでは、児童に「私の問い（資料③参照）」を立てさせ、その問いを解決しながら、言語活動へとつなげていきたい。詳細読みの際に、児童に示すポイントとしては、人物、行動、会話、心情、関係、変化などが考えられる。場面ごとの詳細読みでは、まずは一人で読み取りを進めて考えの形成を図る。その後、ペア児童と対話の時間を設け、自身の読みの妥当性をディスカッションさせたい。その際に、自身の考えの根拠を本文とすることを念を押したい。また、詳細読みの際に全体で解決した方が良いと思われる問いは一斉指導を行い、発問や思考ツール等を用いながら解釈の整理を行いたい。整理した後は自身の担当している人物の日記をペア児童と書かせていく。クルルの日記とカララの日記を合わせ、考えの共有を図る「日記交換会」を開く。互いの考えていたことを相手の日記という形で知ることによって、人物の関係をさらに深く捉え直させたい。また、別の視点から書かれた日記を読むことで、物語を多角的に見る視点があるということにも気付かせていきたい。

第三次では、既習の学習材を使い、関係を捉えた日記を書かせることで、本単元で身につけた力を確かめる。最後に単元全体のふり返しを行い、本単元でどのような力が身についたのか、それを今後何に生かせるかと言った視点で考えさせたい。

### （3）学習材について

「風切るつばさ」は、アネハヅルの群れの話である。アネハヅルは、シベリアやチベットの草原で繁殖し、秋にヒマラヤ山脈を越えて越冬地のインドへと渡る鳥である。モンゴル高原で群れから仲間はずれになり飛べなくなった一羽（クルル）が、カララという仲間をえて、南に向けて飛び立つ話である。クルルとカララ、二者の言動や心情が読み取りやすい作品であり、読み取ったことをもとに二者の関係に着目させやすい。

クルルが飛べなくなった理由にカララが深くかかわっている。中盤で、仲間がクルルを残して南に旅立ち、クルルは「死」を覚悟する。しかし、カララがクルルのもとへ戻ってくることで、クルルは再び「生」を意識することができた。カララの行動によってクルルの心情が大きく変化し、二者の関係も変化していったのである。

以上のように、本学習材は、人物と人物との関係を読み取ることに適した教材と言える。

## 6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
叙述から人物の関係を図化してまとめている。	中心人物や対人物の人物像や人物の関係を読み取り、想像している。	学習課題の解決に向けて、粘り強く取り組んでいる。

7. 単元計画及び本時案（全7時間）

次	時	主な学習活動 (○) 《私の問い》と解決策	指導上の留意点 (○) と主な評価規準 (◆)
一	一時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語活動「日記」(指導者モデル) を読んで、言語活動のイメージを持つ。</li> <li>○ 単元の学習課題を知り、学習計画を話し合う。(5 ページ図1 参照)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語活動のゴールをイメージし、意欲を高めることができるように指導者が作成した日記を配布する。</li> <li>○ 付けさせたい力により意識が向かわせるために、人物の関係を捉えることができなかつたらどんな日記になるかという反例を示す。</li> <li>○ この単元の学習を通して、何ができるようになるか、付けさせたい力を意識させるために学習課題を示す。</li> </ul>
二	五時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本学習材『風切るつばさ』を読み、日記を何回書くことができるか考える。</li> <li>○ 役割を分担し、初めの《私の問い》を立て、ペアで解決策を考える。</li> <li>○ 《私の問い》に沿って、ペアで人物の関係を読み取り、場面ごとの日記を書く。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会話や行動から関係を読み取ることができるか。 →図や表に整理して関係を読み取りたい。</li> <li>・行動や心情が書かれていない人物の心情をどうやって読み取ることができるか。 →前後の場面のつながりから心情を想像したい。</li> <li>・読み取った人物の関係は本当に正しいだろうか。 →近くのペアと相談したい</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のふり返しを行い、次時の《私の問い》を立てる。また、その解決策を立て、見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大まかな場面の区分を捉えさせるために、時間の経過と情景描写に着目することを伝える。</li> <li>○ 役割に応じた《私の問い》を立てることに意識を向かわせるために、「クルルの日記」か「カララの日記」か、役割を分担することを伝える。</li> <li>○ ペアでの対話を通して、《私の問い》の解決をさせていく。</li> <li>○ 人物像や人物と人物の関係を捉えるために、着目したいポイントを既習の学習から想起させる。</li> <li>○ 人物関係図(コンセプトマップ)を紹介する。関係図に会話や行動や心情をまとめていくことで関係を読み取ることつながっていく例を紹介する。</li> <li>○ 読み取る力の個人差に配慮したり、他児童の視点から読みを広げたりすることができるように、対話を通して人物の関係を捉えさせる。</li> <li>○ 人物関係図から読み取ったり想像したりした関係を基に、日記にまとめさせる。</li> <li>◆ 会話や行動や心情の変化から、クルルとカララの心情を想像し、人物の視点に立って日記を書くことができる。【思考・判断・表現】</li> <li>○ 場面ごとに問いを立てさせ、解決法を考えさせ、ふり返しを書かせていく。児童自身の学びの履歴を残すことで、単元全体で付けさせたい力に向かって学習を行っていくことに意識が向かうようにさせる。</li> </ul>
	(本時3/5)	<p>1 前時までの学習をふり返し、本時の《私の問い》と解決策を確認する。 (7分)</p>	<p>1-(1) 自分が考えている解決策ではないものにも目を向けさせるために、他児童の解決策を紹介し板書する。</p> <p>1-(2) 言語活動のゴールの考え方の見通し、付けさせたい力を確認するために、前時までの言語活動の成果物「日記」や、解決策の例を紹介する。</p>

	<p>2 《私の問い》に沿って、②の場面の日記を書くために人物の関係を捉え、日記を書く。 (23分)</p> <p>・カララの気持ちはどうやったらみつけることができるか。 →前の場面や後の場面の行動や気持ちから想像したい。</p> <p>・前の日の日記とどうやってつなげるか。 →前の場面から気持ちの変化が分かるように読み取って、書きたい。</p> <p>3 本時の活動を共有する。 (5分)</p> <p>4 本時の学習をふり返り、次時の《私の問い》を立てる。また、解決策の見通しを持つ。 (10分)</p>	<p>2-(1) 思考ツールのみにも頼ることを避けるために、人物関係図をプリントしたものは全員には配布をせず、必要感のある児童にのみ渡す。</p> <p>2-(2) 机間指導を行い。人物関係を読み取ることができていないペアは、叙述から心情を想像させる。</p> <p>2-(3) 机間指導を行い、想像のみによる関係の読み取りを避けさせるために、「なぜそう考えたのか」「どこからそう読み取ったのか」を発問する。</p> <p>2-(4) 読み取りにズレがある場合には、関係の修正を行わせるために、ズレの生じている児童、もしくは全体での議論の場を設ける。</p> <p>3-(1) 言語活動「日記」の表現上の巧みさ、心情の表し方、捉えた関係を表現する言葉遣いに着目させるために、児童の日記を紹介する。</p> <p>3-(2) クルルがカララに対して感じている関係と、カララがクルルに対して感じている関係が違っていることに気付かせたい。</p> <p>4-(1) ふり返りを行わせることで、付けさせたい力について再確認する。</p> <p>4-(2) 次時は③の場面であることを予告し、本文に目を向けさせ、大まかな内容をとらえさせる。人物の心情や会話や行動に目を向けさせ、次時の《私の問い》を立てやすくする。</p>
	<p>○ 「日記交換会」を開く。</p>	<p>○ 捉えた心情による巧みな表現、感情を表す言葉の違いにも着目させ、児童の語彙を広げることにつなげていく。</p> <p>○ 同じ人物の視点で書かれた日記を読む際には、自分達との共通点や相違点を探すことを伝える。関係を捉える活動によって生じた解釈のズレを感じさせたい。</p> <p>○ 違う人物の視点で書かれた日記を読む際には、同じ物語でも視点が変わるだけで、多角的な読みができることを感じさせたい。</p>
<p>三 一 時 間</p>	<p>○ 評価活動(評価テスト)を行い、本単元を通して身につけた力を試す。</p> <p>○ 単元のふり返りを行い、何ができるようになったか考える。</p>	<p>◆ 『サボテンの花』について本時で身につけた力を発揮し、言語活動に取り組んでいる。 【主体的に取り組む態度】</p> <p>○ 身に付いた資質・能力や方略が何なのかをふり返られるように、ノートやワークシートや日記を配布する。</p> <p>○ 関係を捉える力、捉えた関係から人物の視点に立って日記に表現する力を価値付け、言語活動に有用感を味わわせたい。</p>

### 1 本時（本単元）における「主体的な学び」とは

児童には単元の導入で、本単元の学習計画表（図1）を配布し、単元の構成を知らせて上で学習に取り組ませている。また、言語活動の教師モデルを配布し、言語活動への意欲付けと、言語活動のイメージを持たせている。児童は、単元の大枠と、単元のゴールの姿を知ることで見通しを持って学習に臨むことができていると考える。また、「関連付ける（思考・対話活動）」→「日記を書く（言語活動）（資料①参照）」という作業を、学習材の場面の詳細読みごとに繰り返していくことを伝えているおり、毎時間の見通しを持って学習に臨むことができていると考える。他学級の実践では、同じ活動を繰り返す中で力の高まりを児童に実感させることができず、ふり返りの持たせ方は課題として残っていると考える。

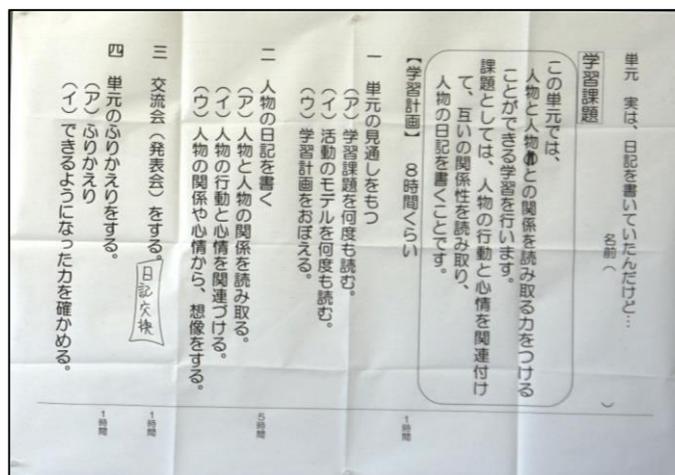


図1 学習課題と学習計画

### 2 本時（本単元）における「対話的な学び」とは

協同的な学びをねらって「人物関係図（コンセプトマップ）（資料②参照）」を作ることを《私の問い》の解決策の一つとして設定した。特に人物関係図の作り方や対話の方法については指定しておらず、児童の自由な発想や読み取りの差が対話の材料として生まれ、対話が活発になることを期待していた。対話の前に一人で自分の考えをもつための時間を確保すべきか迷ったが、時間の都合でカットした。また、机間指導とねらいとしては、教師との対話で思考を促すこと、教師の働きかけでペアの対話を活発にすること、矛盾したり全体で考えたりする材料をピックアップすることであったが、もっと自由な対話の場を作っても良かったのかもしれない。全体での議論・共有の時間で話題の中心は、カララはクルルのことを仲間殺しの犯人だと「思っているか」「思っていないか」である。この話題に時間を多く費やしたが、あの場での思考の整理には私自身に課題が残った。参観後の指摘にもあったように、叙述に触れさせる、他児童にも意見を求めるなど、軌道修正や学びの展開の可能性は様々にあったはずである。

### 3 本時（本単元）における「深い学び」とは

①人物関係図。これは、叙述を「人物関係図」に再構成すること、叙述を「人物関係図」で関連付けることで深い理解に至ること、捉えた関係から叙述にはない心情を想像し表現を創造すること、以上の3点を本単元における深い学びとしてねらっていた。②問いと解決（資料③参照）。大まかに場面を捉え、解決したい問いを立てることと、その解決策を仮定しておく時間を確保しておくことも深い学びを実現するための手立てとして設定していた。手立てとしての設定で終始してしまい、手立ての運用面で課題が残ったと考える。ペア活動前提の学習において個人で問いを立てる必要があるのか。そうであるなら全体で解決すべき課題「共通のめあて」的なものがあったのかもしれない。

### 4 その他

主張点に書いているように、九小国研理論（1. 学習課題 2. 《私の問い》と解決策 3. ふり返り・見通し の3つの柱）を、あまり特別な感じにせず授業化するとどう見えるのかという挑戦でした。参観者の先生方に九小国研の理論で国語科の授業を行いやすいと感じてもらえるように、シンプルな単元構成とシンプルな学習活動を示したくていくつかの提案を行った授業でした。指導案にも、3つの柱については本単元・本時の中でふれていますし、その時間帯を設定はしていました。反省としては、時間や手立ての設定だけでなく、時間や手立ての運用の仕方についても分かりやすい形でお見せすべきだったと思います。

資料① 言語活動「日記」を書く

②の場面の「カララ」の日記

あ、今日もクルルを助けられなかつた。ほくは、クルル以外のツルたちと、一緒にいて、よかったのだらうか。仲間にクルルのせいではない、と言いつ返さなくて、よかったのだらうか。

今日、ずっとクルルは、1人ぼつただ。かなしそつらだつた。もう、そんなクルルは見、てられない。

明日こそ、クルルを助けるぞッ

書いた人「 と 」

①の場面の「カララ」の日記

今日はひどい1日だ。た、小さい子が、キツネにおそわれ、死（た）んでしまったのだ。

無言だつたおれの中で「だれか、か」口を開いて、キツネにきずかれたのは、クルルのせい、ということになってしまった。ほくは、クルルからえさをわけてもらふときがあるから、言いかえそうとしたけど、もし言いかえした、（私）ほくもせめられるかもしれない、でもクルルに助けてもらふていたから、（私）ほくもたすけないといけないな。

書いた人「 と 」

②の場面の「クルル」の日記

ほー、今日も言われた。あ、のとき自分が言いつ返して、いれればな。とうとう、ほくと口をきかなくな、ちゃつたな。カララもだよ。もう飛ぶのかつら。自分の顔も足もつばさも、みんないやだ。つばさの音も雑音に聞こえる。友達も仲間も信じられなくな、たよ。ほくは、ずつと一羽でいるしかないのかな。

ほくは、全てか信じられない。そして、きらいにな、ちゃつたんだ。

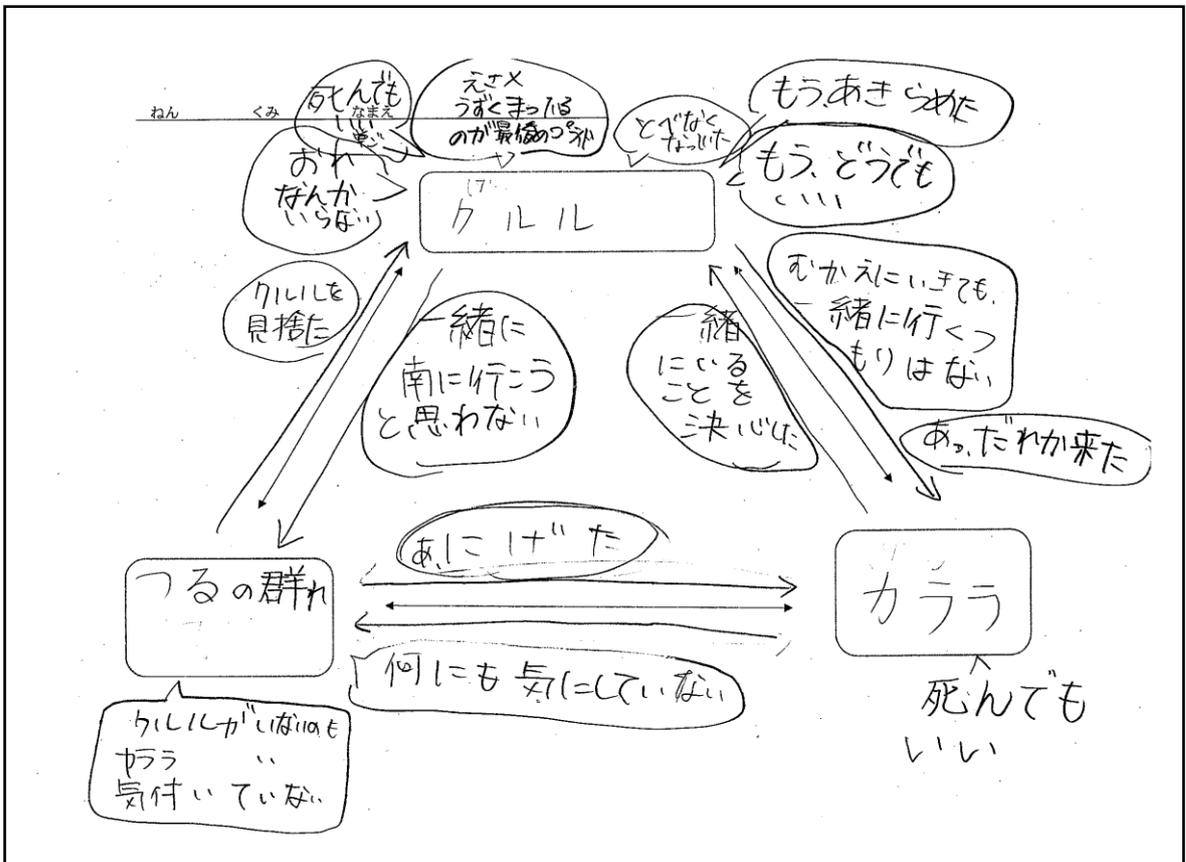
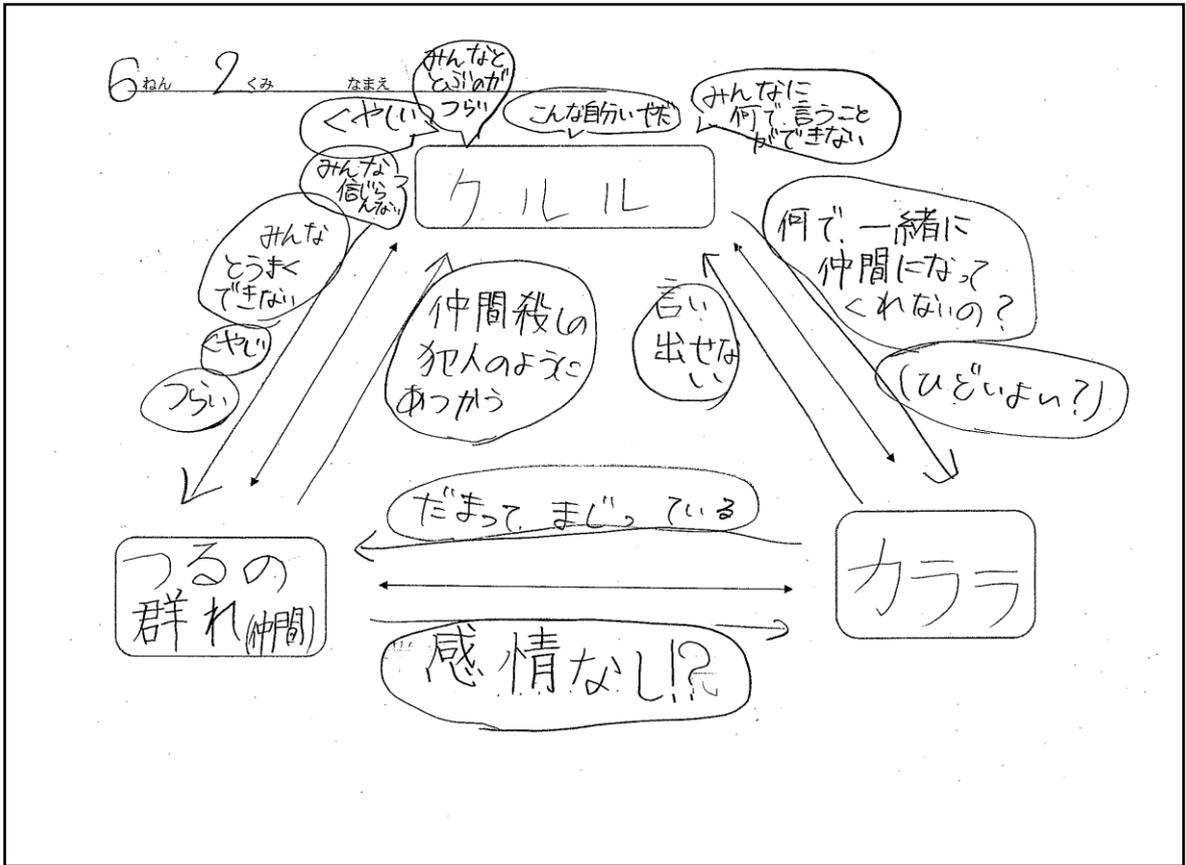
書いた人「 と 」

①の場面の「クルル」の日記

今日、1羽の仲間の命が失われた。みんなほく（私）にきびしい言葉をぶつけてくる。みんなほく（私）か「ほくは、た」つと言つて、いた。か、ほくの他にもほくは「た。なのにな、ほくを犯人にして悲しいな。（私）友達のカララまで何も言わな、い。カララは、ほくのことが、嫌、いなのかな。今日は、ねる気にもならな、い。ほくは、い、いな、ほうか、いいのかな。

書いた人「 と 」

資料② コンセプトマップ（人物関係図）の児童作成例



資料③ 《私の問い》と解決策とふり返りを残していくワークシート

この日も日記を書いたんだけど… ～風切るのせわ～

名前 (                      )

※この課題 本冊だけでは、人物と人物のこの関係を読み取る力をつねに高めることが出来る課題を行います。  
課題としては、人物の行動と心情を関連付けて、互いの関係性を読み取り、人物の日記を書き進めます。

時	《私の問い》	解決策	ふり返り
①			★
②	★クルルとカララはお互いどう思っているのか？	★会話文や気持ち、状況をかいた女から読み取りたい。	●今日はだいたいが書けました。まだ状況や心情、関係性をしっかり理解していないから、たのび次に調べたいです。
③	●お互いの心情や関係性は何か	●文章から読み取り、状況を整理する。	▲今日はコンCEPTマップを使用し場面②の日記をかきました。関係性を理解することで日記が書きやすくなりました。
④	▲それぞれ(クルル、カララ、群)は何を思っているか 心情は何か	▲コンCEPTマップを使用し整理しながらかきたい。	◆今日は少ない文から想像してかきことができました。コンCEPTマップで整理しながらかいてよかったです。
⑤	◆クルルとカララの心情は変わったのか？ どう変わったのか	◆文を読みそれぞれの立場に立ってかんがえる	☆今回はカララとクルルのそれぞれの立場に立って考えることができました。それぞれが何を思っているか、どんな気持ちなのかを考えたのがよかったです。
⑥	☆クルルとカララの心情は変わったのか？ 心情は？	☆それぞれの立場で考える。	◎今日は最後の場面の日記をかきました。それぞれの立場に立ち、それぞれの思いをも考えられてよかったです。
⑦	◎	◎	□
⑧	□	□	